

令和5年8月6日掲載

熊本日日新聞 読者の広場

民生委員 長川 令子（ながかわ れいこ）さん

タイトル：「地域の中学生温かい心育つ」

わが家の近くの山を切り開いた丘の上に稜南中学校があります。自然環境がとても良く、美しい緑に包まれ、季節ごとに花の香りが漂います。

私は自宅から学校の丘まで毎日早朝ウォーキングをしています。自然の恵みももらいながら、心身ともに浄化できることに喜びを感じています。

学校の入り口は桜並木の坂道。生徒さんに会うと、みんな必ずあいさつを交わしてくれます。きちんと立ち止まってあいさつされると、こちらの方がかえって恐縮してしまいます。

ある朝、雨が降りそうだったので傘を持って家を出ました。学校の坂の下にある木に傘を掛けてから坂道を上り始めると、校舎全景の見える頂上に着く頃、小雨になりました。

すると、そこを通りかかった生徒さんが雨に濡れた私を見て「おはようございます。この傘を使われませんか」と心配そうに声をかけてくれました。私は「大丈夫です。ありがとう」と言って遠慮しました。

もしその生徒さんが傘を私に渡せば自分が濡れてしまいます。それにもかかわらず温かい言葉をかけてくれたことに深い感動を覚えました。

私が住む身近な地域の中学生に、人への思いやりの心が育っていることを大変うれしく思いました。心温まる感動の朝の出来事でした。

こんなふうに身近な所から思いやりの輪が広がっていくといいですね。